



### アオノメハタ

分類：スズキ目 スズキ亜目 スズキ科 ハタ亜科  
 学名：*Cephalopholis argus*  
 英名：Peacock coral-cod

奄美大島からフィリピン、アフリカ東海岸、紅海及マイクロネシア、ポリネシア、オーストラリア等の熱帯海域の珊瑚礁地帯に普通に見られるもので全長40cm位に達する。

体色は暗褐色の地に黒く縁どられた青白色の円形の斑紋が散りばめられ素晴らしく美しい。胸鰭の起部には白色の斑紋が顕著である。背鰭軟条部とシリ鰭及尾鰭の縁は濃青色に縁どられている。沖縄では食用とするが、南方珊瑚礁附近のものは中毒性をもっていると報告されているので食用の際は注意が肝要である。同属のユカタハタ(*Cephalopholis miniatus*)は赤橙色の地肌に円形の同様な斑紋が見られ、分布域も全く同じである。



アオノメハタ



アオノメハタ



コクハンハタ *C. sexmaculatus*



ユカタハタの一種 *C. taeniops*



ユカタハタの一種 *C. taeniops*

### タマカイ

分類：スズキ目 スズキ亜目 スズキ科 ハタ亜科  
 学名：*Promicrops lanceolatus*  
 英名：

南日本からオーストラリア東岸及西岸、インド洋、大西洋の暖海の岩礁地帯に分布する体長3mに達する大型魚である。幼魚は不明瞭な黒色の斑や点や横縞などが見られるが成長するにつれて変化し、成魚では一様に暗褐色である。マハタ属(*Epinephelus* sp)と比べて背鰭棘が短いこと、各側線鱗管に4~6本の放射状小管があることなどで区別される。体型は長楕円形で側扁する。上顎の後端は眼の後縁より後方に位置する。屋鰭後縁は円みをおびている。

